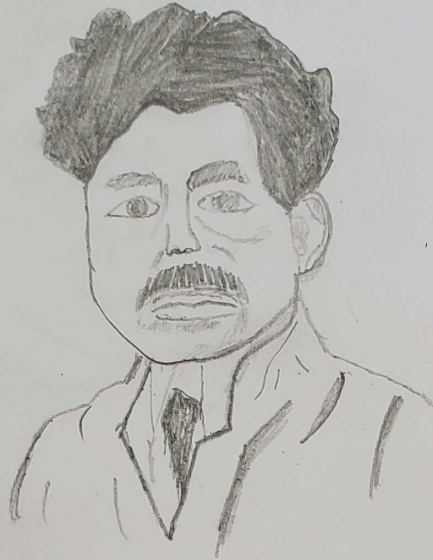


社会科 人物紹介カード 6年 名前 清水優希

名前 野口英世

絵



生い立ち・できごと・活やくしたことなど

福島県猪苗代町生まれ

↓

11歳:左手に大やけどを負う。

14歳:会陽医院、渡部の手術を受ける。

→手術により手を運かせるようになり、医学に感銘。

↓

21、22歳:医術開業前期試験、医術開業後期試験合格、医師の資格を得る。

↓

26歳:毒蛇の研究 29歳:ロックフェラー医学研究所に入る

36歳:梅毒スピロヘーカの純粋培養に成功

39歳、40歳→ノーベル賞こころとなる。一時帰国し、再び渡米。

→43歳:エクアドルで黄熱病の病原体を発見する。

↓

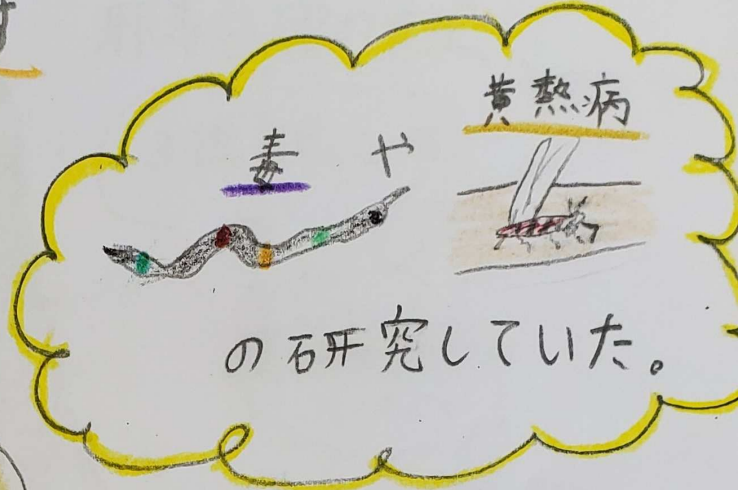
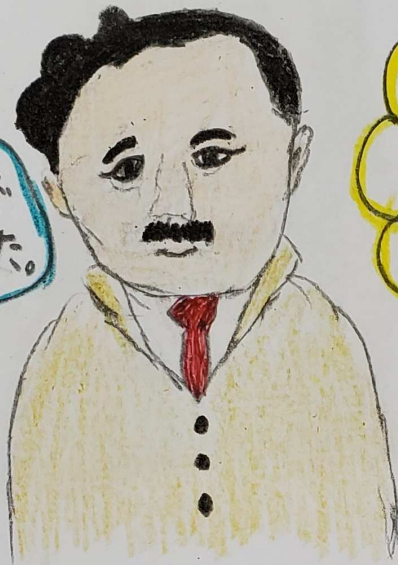
45歳:ノーベル賞こころとなる(3回目)

53歳永眠

名前 野口英世

会 やけどから医学を志す

52歳で
亡くなった。



明治～昭和時代

生い立ち・できごと・活やくしたことなど

福島県の貧しい農家に生まれた。幼い時に負ったやけどで手が動かなくなりましたが、手術をし手が動くようになったことを感激して、医学を志すことになった。東京で働きながら医学を学び、医師の国家試験にみごと合格した。北里柴三郎の伝染病研究やアメリカのロックフェラー医学研究所で研究を続け、ヘビの毒や黄熱病などの研究で世界的有名になった。

アフリカで黄熱病の研究中、野口英世は自身もその病気にかかり、52歳という若くして亡くなったのだ。